

2022年度 第1四半期
決算説明資料

神 鋼 商 事 株式
会 社

証券コード：8075

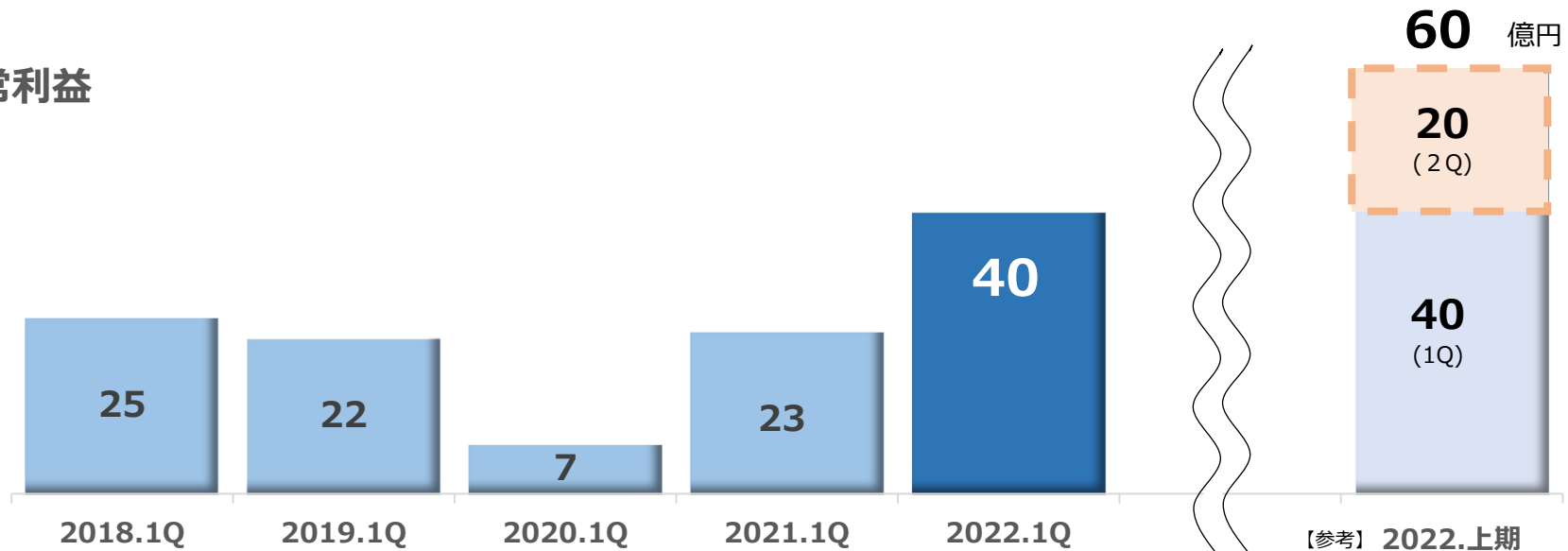
2022年8月3日

本資料のサマリー

業績概要

- 2022年度第1四半期の経常利益は40億円（四半期としては過去最高）
 - 鉄鋼、非鉄金属の各セグメントが引き続き業績を牽引
 - 鉄鋼セグメントは、半導体不足による自動車減産の影響を受けつつも鋼材価格の上昇等により増収増益
 - 他セグメントも市況価格の上昇等の影響により、全セグメントで増収増益（前年同期比）
 - 2022年度通期の経常利益は106億円と2021年度の業績を超過する見込み
 - 2022年度上期の経常利益は60億円を見込む
- 2Q見通し主な増減 : 受取配当金減約▲4億円、販管費増▲2億円、海外現法販売減約▲4億円、非鉄地金影響約▲3億円、その他約▲4億円 他
(第1四半期比)

経常利益



2022年度 1Q 連結損益計算書

- 経常利益は40億円、前年同期比+17億円の増益（約1.7倍へ）
- 半導体不足による自動車減産の影響を受けつつも、鋼材価格の上昇や、他セグメントでも市況価格の上昇等より増収増益
- 四半期純利益は31億円、前年同期比+13億円の増益（約1.7倍へ）

(単位：億円)

	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	増減額	増減率(%)
売上高	1,139	1,409	+270	+23.7%
売上総利益	79	96	+16	+20.6%
販売管理費	△58	△ 61	△3	-
営業利益	21	34	+14	+65.0%
経常利益	23	40	+17	+72.3%
四半期純利益	18	31	+13	+72.9%

※ 21年度の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用するため、上記の連結売上高は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。

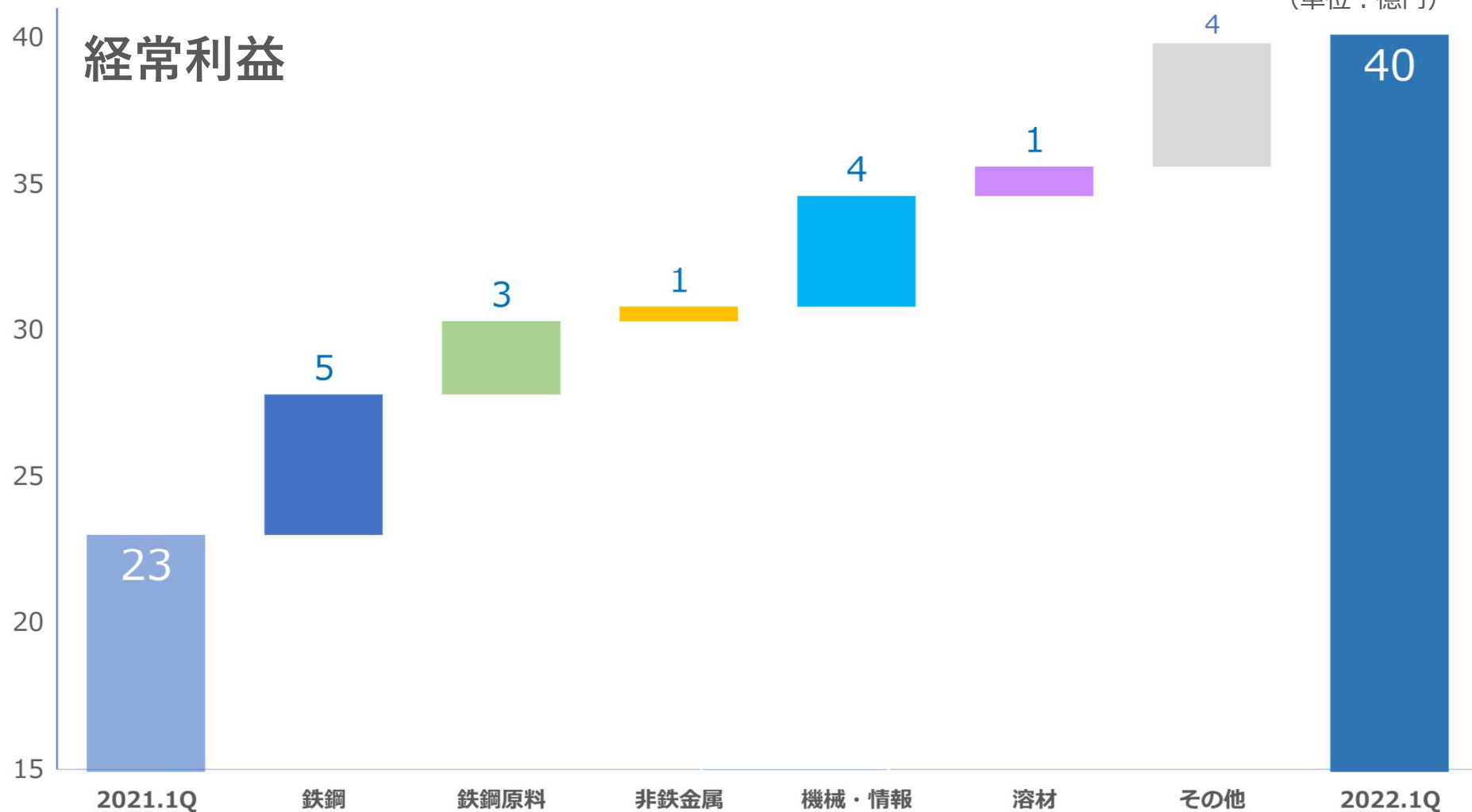
2022年度 1Q セグメント別経常利益増減

(単位：億円)

	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	増減額	増減率(%)
鉄 鋼	12.0	16.8	+4.9	+40.6%
鉄 鋼 原 料	0.7	3.2	+2.5	+348.3%
非 鉄 金 属	11.0	11.5	+0.5	+4.3%
機 械 ・ 情 報	△0.6	3.2	+3.8	-
溶 材	0.4	1.4	+0.9	+197.0%
そ の 他	△0.2	4.0	+4.2	-
合 計	23.2	40.1	+16.8	+72.3%

2022年度 第1四半期 セグメント別経常利益増減

(単位：億円)



経常利益

半導体不足による自動車減産の影響を受けつつも、鋼材価格の上昇等により増益

主原料の取扱い増加による増益

中国子会社における受注好調等により増益

国内外での建機部品等の取扱増、及び子会社での販売好調により増益

国内での溶接材料の価格上昇や子会社の販売好調により増益

不動産賃貸事業等での収益



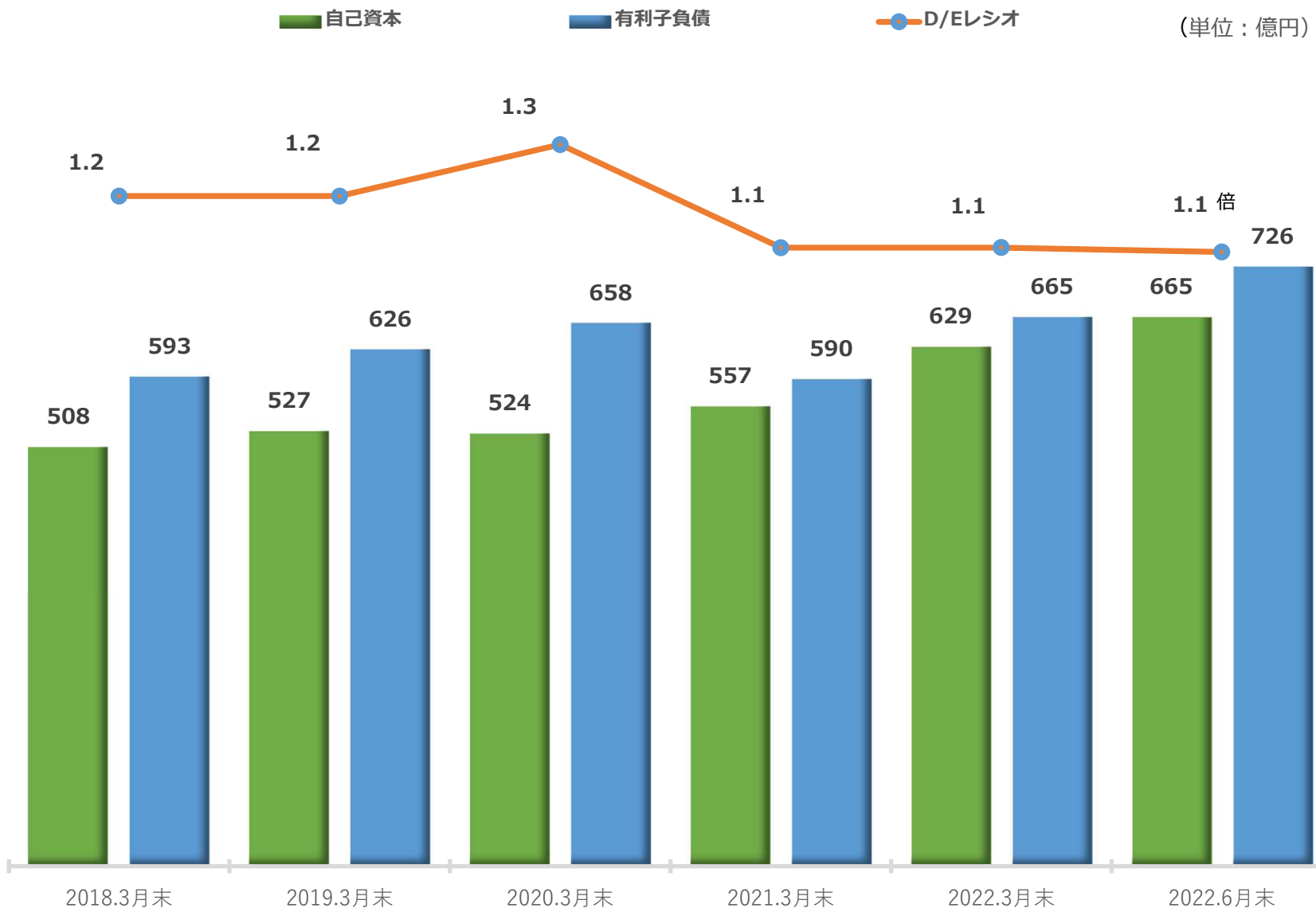
バランスシート状況

(単位：億円)

	2022年3月末	2022年6月末	増減額
流動資産	3,166	3,400	+234
固定資産	474	492	+18
〔有形・無形固定資産	〔 94	〔 96	〔 +2
〔投資その他の資産	〔 380	〔 396	〔 +16
資産合計	3,640	3,891	+251
流動負債	2,793	2,987	+193
固定負債	210	228	+18
負債合計	3,003	3,214	+212
自己資本	629	665	+36
非支配株主持分	8	12	+4
純資産	638	677	+40
外部有利子負債	665	726	+61
自己資本比率	17.3%	17.1%	△0.2%
D / E レシオ	1.1倍	1.1倍	0.0倍

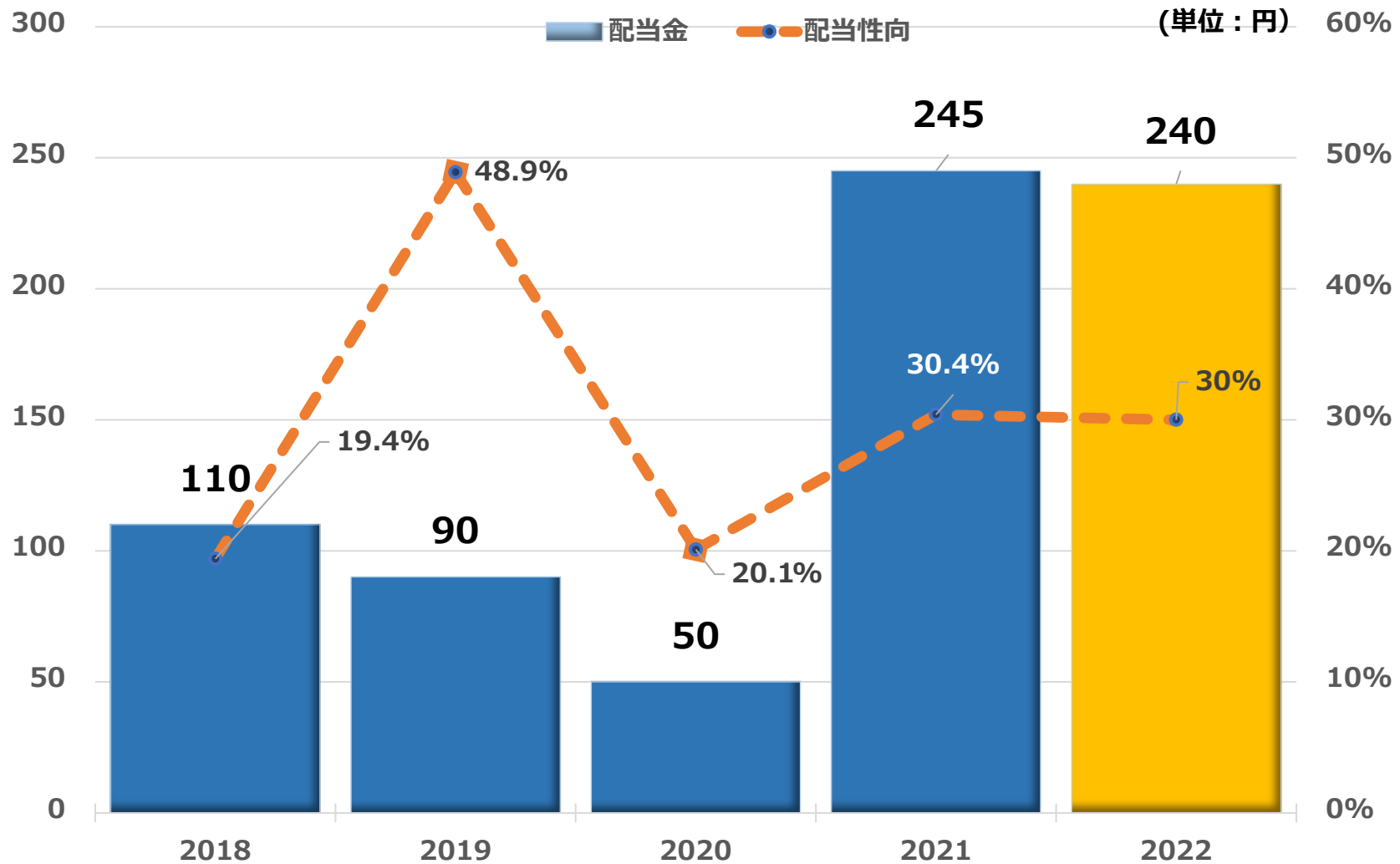
バランスシート状況

● D/Eレシオ： 1.1倍 (参考：ネットD/Eレシオ 0.9倍)



配当推移

- 中期経営計画にて目標配当性向を30%と設定
- 2021年度は30.4%と目標配当性向を達成



2022年度 業績予想

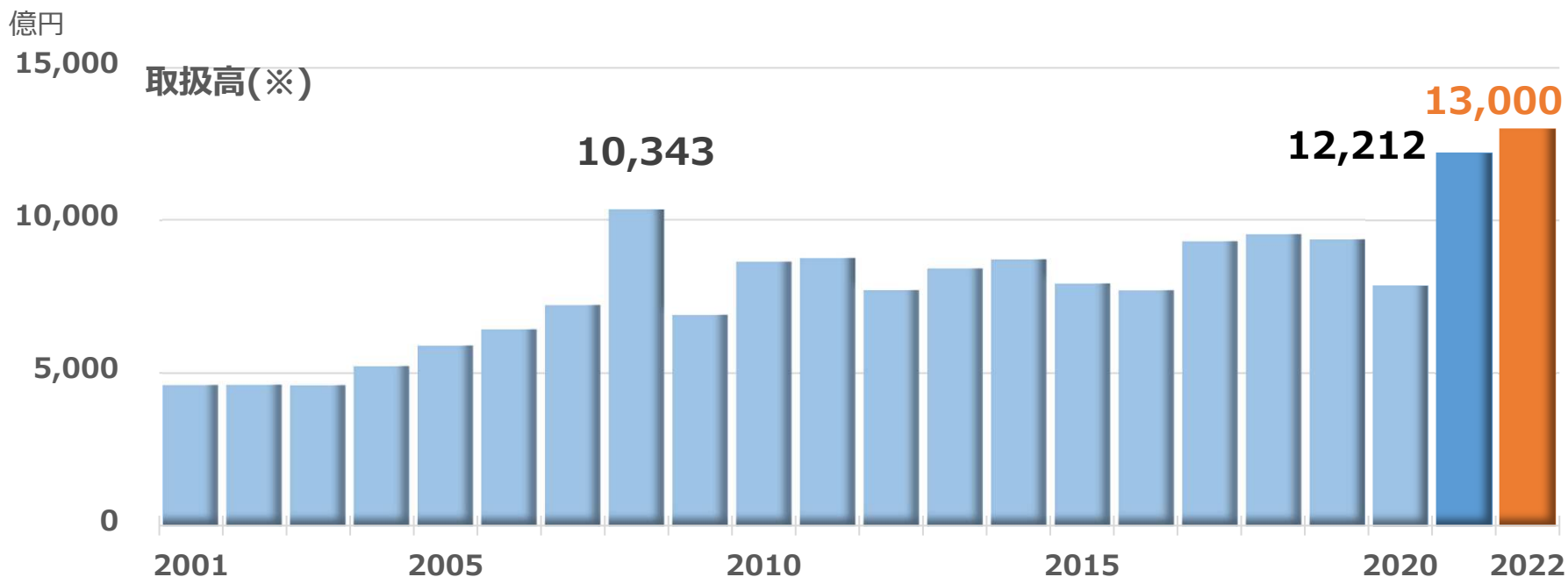
- 2022年度通期の経常利益は前期比約1.1倍の106億円を予想。
- 前期に引き続き、鉄鋼・非鉄金属セグメントが牽引
- 配当見通しは240円（中間120円、期末120円予想）

(単位：億円)

	2021年度	2022年度	増減額	増減率(%)
売上高	4,944	5,400	+456	9.2%
営業利益	101	97	△4	△3.5%
経常利益	97	106	+9	9.0%
当期純利益	71	70	△1	△1.4%
1株当たり 当期純利益	805円	790円	△15円	△1.4%
配当金(円)	245円	240円	△5円	—

※ 21年度の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の連結売上高は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。

取扱高・経常利益の推移



(※) 取扱高・・・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しなかった場合の売上高



神鋼商事株式会社

(2022年4月4日時点)

業 態	商 社
証 券 コ ー ド	東京証券取引所 プライム市場(8075)
住 所	<p>【大阪本社】 大阪府大阪市中央区北浜二丁目6番18号(淀屋橋スクエア)</p> <p>【東京本社】 東京都中央区京橋一丁目7番2号(ミュージアムタワー京橋)</p>
創 業	1946年11月12日
連 結 子 会 社 数	38社
従 業 員 数	連結：1,396名 (外、平均臨時雇用者数 101名) 単体： 440名 (外、平均臨時雇用者数 58名)
単 元 株 式 数	100株

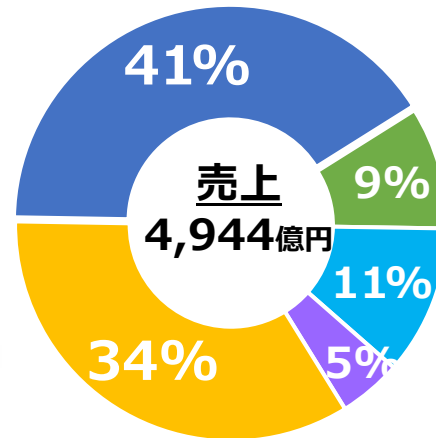
セグメント別事業概要

【参考資料】

- 当社は、5つのセグメントで事業を展開
- 鉄鋼・非鉄金属で売上の約75%、経常利益の約73%を占める（2021年度）

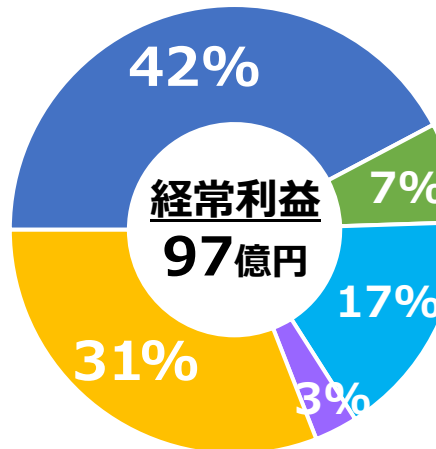
鉄鋼

自動車向けを中心に鉄鋼製品を国内・北米・中国・東南アジアに供給
北米加工拠点の強化等、設備投資・事業投資を展開



非鉄金属

自動車・半導体・空調等へのアルミ・銅素材及び加工品の供給
スクラップ・雑電線等のリサイクルビジネス及び国内外加工拠点の強化・新設



鉄鋼原料

鉄鉱石等、製鉄所向け原料を安定供給
バイオマス燃料、鉄スクラップ等の資源循環型ビジネスにも注力



機械・情報

産業機械や建機部品、電子情報関連製品まで幅広い製品を取扱う
メンテナンスや部品などのアフターサービスにも注力



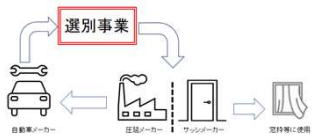
溶材

高品質・高シェアの溶接材料に溶接ロボット等を加えたトータルソリューションを提供



中期重点施策の実施状況

【参考資料】



自動車用アルミ板の
リサイクル事業

- 既存の取り組み
- 新規の取り組み



蘇州神商金属(アルミコイルセンター)の設備投資
NEV向けアルミ加工能力増強



バイオマス燃料供給
GGL認証の取得



北米2拠点(GBP、AWP)での
自動車向け特殊鋼2次加工能力増強

	日本	中国・東アジア	東南アジア	北米	欧州	インド・中東 アフリカ・その他
自動車分野 (各種輸送機を含む)	● 特殊鋼	● アルミ板材 ● 特殊鋼	● コネクタ(銅) ● 溶接材料	● 特殊鋼	● 非鉄加工	
プライマリー原料分野 (製鋼原料、地金)		● 神戸製鋼Gr 非鉄事業原料調達	● 合金鉄			
環境リサイクル分野	● アルミ屑		● バイオマス燃料 ● 雑電線屑	● 冷鉄源調達 ● バイオマス燃料		● 非鉄原料
建築分野	● 建設鋼材・ 建材製品		● 非鉄加工			
エレクトロニクス分野 (二次電池、半導体向け)	● 電池部材 ● ターゲット材	● アルミ精密加工	● アルミ厚板切断			
建設機材分野	● 溶接材料 ● 建機部品		● 機械メンテナンス			● 建機部品合併 ● 厚板溶断



当社子会社エスシーエールによる
溶接関連資機材販売事業の事業譲受



半導体・FPD用イオン注入装置の製
造を手がける神商精密器材(揚州)
を子会社化



ベトナム・アルミ切断加工会社設立予定
KTNメタルベトナム(仮称)
(写真はKTN)



Track Design India 設立
建設機械向け部品製造の合併会社

企業理念

**私たちは誠実をモットーに、新しい価値の創造を通じて、
豊かな社会づくりと、みんなの幸せをめざします。**

※本資料に記載されております業績予想並びに将来見通しは、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、現時点で予測可能な情報に基づき当社が判断したものであり、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、様々な要因により記述されている将来予想とは大きく異なる可能性があり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみで投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料の利用で生じた損害を、当社では責任を負いかねますことご承知おき願います。